

# 令和6年度 上尾市立芝川小学校 学校評価書

自己評価の評価基準： A…十分達成している B…ほぼ達成している C…やや達成している D…改善する必要がある

学校関係者評価の評価基準： 自己評価と同じ評価の場合は、自己評価は妥当であると判断。異なる場合は、学校関係者評価委員会としての見方を示す。

領域	評価項目		自己評価	○成果 ●課題、改善点	学校関係者評価	
					関係者評価	意見・提言
学校運営	①	学校は、学校教育目標の達成に向けて、具体的な方策を示し、組織的に取り組んでいる。令和6年度キャッチフレーズ：「しっかりあいさつ・へんじ しっかり聴く」	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「しっかりあいさつ・へんじ しっかり聴く」が、定着してきている。</li> <li>○全職員が意識して取り組んでおり、変容が見られる。</li> <li>○朝のあいさつについては、子供たちから先にあいさつする児童が増えた。</li> <li>○全校児童及び保護者であいさつ標語を作成しあいさつについての啓発ができた。</li> <li>○見守りボランティアの方からも、あいさつがよくなったという話をいただいた。</li> <li>●学校から離れたところでの地域でのあいさつや家庭でのあいさつができていない児童もいる。</li> </ul>	A	・休み時間に学校を訪問した時、低、中学年は、よくあいさつをしてくれるが、高学年は照れるのかあまりできていない様子も見られる。地域では、こちらから声かけすれば、あいさつできる子が増えた。
	②	学校は、目指す学校像に向けて元気、やる気、あいさつを教師が率先垂範し、夢をはぐくみ元気あふれる学校づくりに努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童の話をよく聞くとともに、生活アンケートの実施で児童の様子を把握し、丁寧な生徒指導ができるよう、組織で連携している。</li> <li>○職員同士のあいさつも意識したことで活発になっている。</li> <li>○パリオリンピックに出場した卒業生が、学校に来て、児童と触れ合う機会があったことで、児童が誇らしさをもつとともに自分たちも、という将来への期待感をもつことができた。</li> <li>●児童のやる気を出すためには自己肯定感を高める必要がある、そのペースとなる学力向上をさらに目指す必要がある。</li> </ul>	A	・学校の研究で行っているPBSについての研究が生き、丁寧な生徒指導ができていく様子が見られる。 ・高学年になると授業が分かるということが自己肯定感につながるという先生の話聞き、改めて授業の大切さに気付かされた。日々の教材研究に努めてほしい。
学習指導	③	学校は、学力向上に向け、児童の実態に基づき、ユニバーサルデザインの視点や主体的・対話的で深い学びの視点に立った指導方法の工夫・改善に努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業づくりを視覚化、焦点化、共有化の視点から工夫しようという意識が高まった。</li> <li>○問題や課題の提示について工夫を行うようになった。</li> <li>○授業でICTを活用しての考え方の共有や意見の発表など、特に高学年は日常的に行えるようになった。</li> <li>○インプットされた知識を、アウトプットする活動を増やすことができた。</li> <li>●1年生は共有使用のため、指導におけるICT端末の活用までは至っていない。</li> </ul>	A	・授業でICTを活用する今の授業が将来子供たちにとって有効になることを願う一方で、字を書くことが減っていること、視力低下につながるのではないかと懸念される。世界の新たな動向にも目を向けていけるとよい。
	④	学校は、PBSの視点から一人一人のよさを認め、かけがえのない存在として互いに大切に「思いやりのある子」の育成に向けて、指導している。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校課題研究の取組の中で、自分や友達「いいところ探し」を行い、特に自分のいいところを人から伝えられたことで自己肯定感の高まりが見られた。</li> <li>○きらりタイム「見つけたよきらり」の取組で友達からのありがとうを伝え合うことで、互いを認め合う様子が見られた。</li> <li>●学習においては、いくらほめても、勉強がわかったという気持ちがないと、自己肯定感が高まらない部分もあるのでは。</li> </ul>	A	・PBSについての研修も参加し、取組方が、とてもよくわかった。
体力・安心・安全	⑤	児童が運動に親しみ、技能や体力を向上させる取組を行ったり、外遊びの推奨を行ったりしている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○長距離走記録会前のRUNタイムやドッジボール大会を実施したことは、運動する機会を増やすことに役立ったと感じる。</li> <li>○体育の授業で、出来る限り、説明を焦点化し、児童の活動量を増やすことを意識することができた。</li> <li>●業間休みや昼休みに外遊びするよう声かけができなかった。</li> <li>●熱中症危険のため、体育や外遊びができない日が多かった。</li> </ul>	B	・異常な暑さに見舞われたこともあり、児童の健康を守るためには、安全管理の面から仕方ないことだと感じている。 ・今後も気温の高い夏が予測できるので、朝の涼しい時間に体力づくりの機会を設けるなど工夫が必要ではないか。
	⑥	学校は、生徒指導・教育相談・特別支援教育における校内体制を充実させるとともに、いじめを見逃さず、いじめの根絶に向けて、組織的に取り組んでいる。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○いじめと疑わしきトラブルが見つかった時に、すぐに学年や管理職に報告・相談し、対応できる体制が定着している。</li> <li>○特別な支援を必要とする児童については、教育相談主任を中心にケース会議を実施し、共通理解を図ることができたため、有効であった。</li> <li>○にじいろルーム（スペシャルサポートルーム）を設置し、活用が図られている。</li> <li>○毎月1回の生活アンケートや日頃からの観察、児童や保護者からの訴えなどから、小さなサインも見逃さないよう把握に努めることができた。</li> </ul>	A	・いじめのめんどいのは組織的に取り組まないと難しいことなので、とてもよいことだと感じる。 ・いじめを見逃さない姿勢、体制が定着できているのは、とてもよいと思う。不登校児童の様子については、引き続き話題にしていきたい。また、これから中学校に進学する児童が健全に登校できる指導を願う。
	⑦	学校は児童が安心して通うことのできる安全な学校を構築するよう努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎月の安全点検を全職員で行い、管理職に伝え、修繕を行っている。</li> <li>○食育は給食委員会児童が行う、エプロンシアター等をおして行っている。また、給食委員会の食品ロス削減について取組を行っている。</li> <li>●安全については、繰り返し指導してはいるが、廊下歩行については、課題がある。廊下を走る危険性について、加害者になる可能性、被害者になる可能性などを含めて、学年の実態に応じた具体的な指導を実施するなど、指導法を工夫することが大切だと考える。</li> </ul>	A	・朝、登校の際は、班長を先頭に安全に気を付けて登校している様子が見られる。下校については、各自がさらに自分の身は、自分で守るという意識を高められるとよい。
情報発信	⑧	学校は、学校の方針や取組、児童等の様子がよく伝わるように、保護者や地域に情報を提供している。（学校だより・学年だより・ホームページ・配信メール等）	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年の活動ページを毎週更新することで充実できた。</li> <li>○配信メールは、必要ときにわかりやすく配信されている。</li> <li>○保護者にも、各学級のgoogle classroomの掲示板を見られるようにしたことで、より学級ごとの連絡等も細かく行うことができていく。</li> <li>○学校運営協議会の方に、行事参加や授業参観などを勧め、学校の様子を把握するように努めている。</li> <li>●時期により、更新回数に偏りがある。</li> </ul>	A	・配信メールにより、わかりやすい情報を受け取ることができている。 ・さくら連絡網のおかげで、情報がいろいろと分かりありがたい。
教師の資質向上	⑨	学校は、教師を校内外の研修に積極的に参加させたり、校内研修を充実させたりするなど、教師の資質・能力向上に努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各学年担任が講師を担当するICT研修を行うことで、他の教員が行っている活用方法について知ることができている。</li> <li>○市内の市教委委嘱研究発表会等に参加する職員を計画的に決め、職員の資質向上に努めている。</li> <li>○年次研修や校務分掌に合わせた研修に積極的に参加できた。</li> <li>●自己研鑽のため、埼玉県や他市町村で行われる研修にも、自主的に参加を希望し、取り組んで行きたい。</li> </ul>	A	・先生方の意識の高さを感じる。 ・児童のために、より自己研鑽に励んでほしい。
	⑩	学校は、時間外在校等時間の削減を目指し、教師の働き方を変える意識をもたせるよう努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校長先生が設定した在校の最早時間と最遅時間を意識して仕事をすることができた。</li> <li>○定時退勤推奨WEEKを年に数回行うことで、時間の使い方を計画的に考えられるようになった。</li> <li>○個人比較においても、時間外在校等時間の縮減が見られた。</li> <li>○SSSの活用が大変有効であり、業務改善につながった。</li> </ul>	A	・日課の変更や、過剰な授業時数の削減により、先生方の負担の軽減ができていくように見える。